資料 1

令和５年度を振り返って

特定非営利活動法人ほっぷの森
理事長　菊田俊彦

令和５年度４月から「就労準備支援センターあぽかぽ」(生活訓練)をスタート。就労移行支援と組み合わせ「ほっぷの森カレッジ」をスタートさせた。又、５月８日から TFU Cafeteria Olive が３年あまりの休業を経て再スタートした。両事業ともパートナーの出入りも含め仕組み作りに試行錯誤する１年となった。

法人全体としても運営的には厳しい１年となったが、今年度の頑張りを次年度の実績に繋げていきたい。

資材原材料の高騰、人件費（最低賃金等含め）の上昇、働き方改革への取組、福祉事業への一般企業の参入など、運営環境も大きく変わってきている。

福祉サービス体系もより細分化され相談支援事業所、定着支援事業所、様々な外部との連携など役割を分担しながらも連携したシームレスな支援へと変化してきている。それぞれの福祉サービスがしっかり目的を果たし、成果をだしながら評価される（選ばれる）そんな時代に代わってきていると感じる。

変化を求められている現状の中で、新しい取り組みや考え、物事を前に進める力、マーケティングや経営の感覚がより求められてきている。

大変な中ではあるが、法人内事業所や関連事業所など人的交流も行いながら全体の力を各事業所へ、そして個へ繋げられればと思う。パートナーの気づきや学び、連携の強化へと繋げて行きたい。様々な尺度、制限の中で前向きに話し合い、しっかり成果として結びつける次年度としていきたい。

ご支援ご協力の程宜しくお願いいたします。

資料 2

「ほっぷの森カレッジ」スタート年の令和５年度を振り返って

ほっぷの森カレッジ学長　渡辺祥子
（ほっぷの森副理事長）

昨年４月にスタートした「ほっぷの森カレッジ」。障がいのある方々の可能性の場を拓き、より自由度の高い支援体制の構築を目指すとともに、社会にもひらかれた場にしていこうと、月に一回様々なジャンルの講師を迎えて開催する「Sunday 月いちカレッジ」（現在２年目を開催中）や、ほっぷの森の取り組みを知って頂く展示と体験の場をつくった「ほっぷの森フェスティバルプレ」の開催など、不特定多数の参加を呼び掛ける催しも行ってきた。

カレッジスタートと同時に始まった、就労準備支援センター「あぽかぽ」の一年は、パートナーがなかなか定着しない中での試行錯誤の繰り返しの日々であった。そのような状況下で何とか踏ん張ってきた様々な体験や教訓は、決して無駄にすることなく、確実に次につなげていかなければならないと考える。他の自立支援事業所にはない「あぽかぽ」の独自性、「ほっぷ」との連携など、そのポテンシャルを引き出すための努力を、「カレッジ」としてやっていかなければならないと強く思う。

そのような中、外部とのつながりを意識した「月いちカレッジ」は、講演のみならず、その場が障害の家族についてであったり自分自身の悩みの相談の場にもなるなど、コミュニティの場になってきていることは良き副産物であると感じている。また、アート・インクルージョンの協力で映像化した講話は、可能な部分は一般公開すると共に、カレッジスタッフの研修教材にもなっている。さらに、手探りで開催したフェスティバルは、「プレ」に続いての本開催に向け、今年度中の開催を目標に掲げて少しずつ次なる動きを始めたところである。こうした取り組みは積み重ねが大事であるので、何とか継続していきたいと考えている。

ところで昨年末、私はこの理事会資料に、―4 月にスタートした「ほっぷの森カレッジ」は、当法人の取り組みであると同時に、「ほっぷの森」の考え方（思想）を体現する大きな柱になると感じている―と書いている。１年が経過した今、思い描くような大きな柱には程遠い状態だが、そのイメージを持ち続け、法人運営に携わっていきたい。

資料 3－1

2023年度（令和5年）就労支援センターほっぷ 事業報告

はじめに

2023年4月からほっぷの森カレッジが開校し定員が就労支援センターほっぷが14名、就労定着支援センターあぽかぽが6名になっている。事業所内のスペースや職員体制、プログラムも変更になり様々な動きを確認しながらのスタートになった。年間を通して職員体制の変更が多く本来の支援がなかなかできなかった1年になった。次年度は体制を整えたうえでサービスを提供していきたい。

1.利用者の推移と方向性

2023年3月に3名が卒業し4月に1名が利用開始し15名でスタートしている（4月から定員14名）。その後7名が新規利用、3名途中退所、8名が就労、1名があぽかぽに転籍になるので3月末現在で9名が利用している。引き続き、医療機関や機能訓練事業所などに営業をかけていきたい。

2.プログラムの取り組み

2023年度からコミュニケーション術で集合訓練だけでなく個別面談を実施し面接時にも役立つようなコミュニケーショントレーニングができている。また表現のプログラムのなかであらためてほっぷの活動をまとめて発表したり作品を作って文化祭のようなイベントも実施した（ほっぷの森フェスティバルプレ）。就労に向けたトレーニングでは気づかない個性も確認できている。就職活動にも生かしていきたい。運動プログラムなどあぽかぽと合同で実施するものも増えている。またプログラムによってはあぽかぽのプログラムに参加するスタッフも出てきている。柔軟に対応するようになってきている。

3.就労目標と支援

集団での企業見学会は実施できていないが個別での見学や実習は積極的に取り組むことができた。また今年度、宮城県庁のビジネスアシスタント事業を前期・後期ともに受託できたので実践的な取り組みとして活用している。（8名が参加している）利用スタッフの中には就労経験がない方もいるので引き続き見学や実習などを通して経験を積んでいきたい。

4.フォローアップの取り組み・就労定着支援事業とジョブコーチ支援との連携

2023年度は2022年度から引き続き「トライアル雇用」の方がいるので就労後も在籍しつつ勤務の前後での連絡や来所での定期面談を実施している。トライアル雇用終了後も月

に一度の訪問面談を実施し状況を確認し6か月経過後の就労定着支援につなげていきたい。またジョブコーチ養成研修を受講し修了した職員がいるので2024年度以降、就労定着支援の手段の一つとしてうまく活用していきたい。

5．ご家族支援

利用開始の際にご家族にも来所していただき普段から連絡ができるようにしている。2023年度は家族交流会は未実施だが個別でしっかり対応していきたい。

6．各関係機関との連携

2023年度は宮城県事業である「障害者就労における連携構築支援業務」「障害者雇用プラスワン事業」（いずれも受託者はアデコ株式会社）からの見学会や研修会にも積極的に参加している。また宮城障害者職業センターのジョブコーチ推進協議会など参加し情報共有している。

宮城県主催の就労支援機関EXPOに2023年度も参加し多くの企業担当者の相談を受けている。そのうち1事業所にはその後、見学等を行い就労に結びついている。障害者雇用が初めてだったので宮城障害者職業センターにジョブコーチ支援を依頼し協働での支援がスタートしている。

行政や障害福祉機関だけではなく障害者雇用を進める企業とも定期的な情報交換する機会を作り地域全体で障害者雇用を推進していきたい。

宮城就業支援ネットワークの活動に参加し就労だけではなく生活面の支援も地域できるような仕組みつくりを行っている。

7．職員研修、スキルアップ

対面での研修会も増えてきているので積極的に参加している。2023 年度は「日本高次脳機能障害学会学術総会」が仙台で開催され（大会長は東北大学病院の鈴木匡子Dr）高次脳機能障害の方への就労支援について発表を行っている。また「職業リハビリテーション研究・発表会」に参加し就労定着支援における転職支援について発表している。全国規模の研修会に参加することで他地域の就労支援の現状を知ることになるので今後の支援に生かしていきたい。

就労支援センターほっぷ
サービス管理責任者
貫洞　正一

資料 4－1

2023年度（令和5年）就労準備支援センターあぽかぽ　事業報告

1．生活訓練事業所としての方針

今年度からの事業で手探りなところもあるが生活のリズムや体力など活動するうえで基礎となるような活動を実施している。

2．利用者の受け入れについて

4月の開始時は1名からのスタートでその後、新規で1名、ほっぷからのサービス変更で1名、機能訓練事業所からの紹介で1名と4名で活動をしていた。3月で1名が復職準備として利用終了となった。

3．プログラムの取り組み

主に座って行うPCプログラムや制作プログラム、事業所内での運動や外出プログラムなど生活のリズムを整えながら体力をつけるようなプログラムを実施している。定期的に図書の予約を行いウォーキングも兼ねて図書館まで行っている。運動やスポーツ系のプログラムはほっぷと合同で行いことでより集団でのコミュニケーションをとっている。

4．支援目標

利用している方がほっぷ（就労移行）に比べ個別対応が必要な方が多いので、基本は集合訓練ではあるが可能な限り個別で支援できるようにしている。

5．ご家族支援

利用開始時や相談支援のモニタリング面談時などご家族とも情報共有する場を作っている。

6．各関係機関との連携

各種会議や研修会に参加し支援学校やサポート校、相談支援事業所の担当と情報交換している。　別紙「会議、研修会参加一覧」を参照願います。

7．職員研修、スキルアップ

他の自立訓練事業所を訪問し情報交換を行ったり、研修会にも参加している。今まで主に高次脳機能障害の研修会が多かったが発達障害や精神障害の研修会にも参加していきたい。

別紙「会議、研修会参加一覧」を参照願います。

就労準備支援センターあぽかぽ
サービス管理責任者　貫洞　正一

資料 3－2

2023年度（令和5年） 就労支援センターほっぷ 年間実施事業報告

2023

2023	令和5年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和5年1月	2月	3月
利用終了者状況 終了日 →終了後状況 終了者（14名） ・一般就労：7名 ・復　職　：1名 ・A　型　：　名 ・B型　：2名 ・中止　：2名	・4/3～茂庶苑 ・4/3～リコージャパン（復職）	・5/31　利用終了→他の移行				・9/1～仙台にしむら		・11/1～パーソルダイバーズ ・11/27　引っ越しのため利用終了→生活訓練（東京） ・11/30　利用終了→B型 ・11/30　利用終了→生活訓練	・12/1～東日本コンクリート	・1/16～ロピア	・2/1～ラテラルキッズ ・4/1～宮城県繁察 ※2月末で利用終了	・3/18～東北大学 ・4/1～東北電力ネットワーク （復職）
新規利用者数 紹介元 →利用開始日 （　名）	1名 ・4/3～相談支援梯	1名 ・5/15～東北大学病院	1名 ・6/5～太白障福C	1名 ・7/18～直接			1名 ・10/19～どんまい梅澤さん			1名 ・1/18～長町病院	1名 ・2/26～清山会	
利用数 出席率(平均者数)	15名 87．0%(13．1名)	15名→16名 84．3%(13．2名)	15名→16名 90．0%(14．3名)	16名→17名 86．4%(14．3名)	17名 83．6%(14．2名)	17名 84．7%(14．4名)	17名→18名→17名 85．9%(15．0名)	16名→15名 82．3%(13．1名)	11名 87．3%(9．6名)	10名→11名→10名 90．9%(10．0名)	10名→11名→10名 86．7%(8．8名)	10名→9名 91．6%(8．8名)
月稼働日数(土、日)	20日(他土、日　2日)	20日(他土、日　2日)	22日(他土、日　1日)	20日(他土、日　2日)	19日(他土、日　2日)	20日(他土、日　2日)	21日(他土、日　1日)	20日(他土、日　2日)	20日(他土、日　1日)	20日(他土、日　2日)	20日(他土、日　1日)	20日(他土、日　2日)
見学者者数 （紹介元）	2名 ・直接 ・太白障福C	4名 ・直接 ・清山会 ・若林障福C ・直接	4名 ・直接 ・直接 ・直接 ・直接	0名	2名 ・どんまい梅澤さん ・仙台リハ病院	0名	1名 ・直接	3名 ・直接 ・職業C ・直接	1名 ・長町病院	2名 ・直接 ・直接	2名 ・泉障福C ・直接	3名 ・直接 ・ハローワーク塩釜 ・北上の郷
体験利用者数	1名 ・東北大学病院	0名	1名 ・直接	0名	0名	0名	2名 ・どんまい梅澤さん ・直接	1名 ・直接	1名 ・長町病院	1名 ・直接	1名 ・清山会	3名 ・直接 ・泉障福C ・直接
障害者就職面接会						ふれあいワークフェア			みやぎ障害者合同面接会 →参加せず		ふれあいウィーク	
模擬面接						・面接会対策講座 ・模擬面接						
セミナー・講習会 企業講話									・オンライン企業説明会（エイジェックフレンドリー、グリーンハウスフーズ）			
企業訪問	※随時個別で対応											
個別企業訪問	・仙台村田製作所		・NEWDAYS ・仙台にしむら		・AGC硝子 ・結っ人（A型）	・陣中	・東日本コンクリート ・ロピア		・ラテラルキッズ	・東北大学		・仙台徳洲会病院
企業(職場)実習 →経過		・リアルスマイル（A型）→応募せず	・仙台にしむら→就労					・ゼロ→不採用 ・ロピア→採用				
体験実習先 （体験者数）		・宮城県ビジネスアシスタント事業（1名）	・宮城県ビジネスアシスタント事業（2名）	・宮城県ビジネスアシスタント事業（2名）	・宮城県ビジネスアシスタント事業（1名）	・宮城県ビジネスアシスタント事業（2名）	・宮城県ビジネスアシスタント事業（2名）	・宮城県ビジネスアシスタント事業（2名）	・宮城県ビジネスアシスタント事業（1名）	・宮城県ビジネスアシスタント事業（1名）	・宮城県ビジネスアシスタント事業（2名）	・宮城県ビジネスアシスタント事業（1名）
法人内実習												
ハローワーク活動	随時必要時に活動											
先輩会	22日	20日					28日	18日				
プログラム												
（毎日実施）	グループミーティング（始めのミーティング・終わりのミーティング）、セルフトレーニング											
（週1回実施）	Bトレ、就職に向けて、メモリーノート、文章理解、文章表現、スポーツコミュニケーション（卓球バレー、ペタンク・段ボールバスケ、ペットボトルボーリング、卓球他）、ストレッチ、作業と身体											
（月1回程度実施）	コミュニケーション術、殿プロ、姫プロ、仕事について、グループワーク、リズム体操、フロアホッケー、健康プログラム（ウォーキング）											
フリープログラム	15日	13日	11日	16日	5日、20日	2日、10日	22日	12日、25日	17日	21日、27日		10日、23日
（随時実施）	・春の行事（映画鑑賞、ゲーム） ・オンライン体操教室	・オンライン体操教室 ・栄養管理講座	・健康増進センター ・オンライン体操教室	・健康増進センター ・ITサポートパソコン講習	・健康増進センター ・夏の行事（八木山動物公園） ・オンライン体操教室	・健康増進センター ・栄養管理講座	・健康増進センター ・オンライン体操教室	・オンライン体操教室 ・秋の行事（芋煮）	・もりのみやこのふれあいコンサート ・ITサポートパソコン講習 ・健康増進センター ・オンライン体操教室	・健康増進センター ・オンライン体操教室	・ほっぷの森フェスティバルブレ	・健康増進センター ・オンライン体操教室
家族見学・講習会	※実施なし											
研修生 ボランティア等					・東北文化学園大学（2名） ・東北福祉大学（2名）		・仙台赤門短期大学					
会議、講習会、研修会等	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ ・高次脳機能障害者支援事業広域研修会@オンライン	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ ・産・福・学」障害者の一般就労に向けた情報交換会	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ ・宮城県リハビリテーションセンター研修会	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ ・宮城県高次脳機能障害リハビリテーション講習会 ・関係機関と企業の定着支援情報交換会	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ ・障害者就労支援機関情報交換会EXPO ・令和5年度宮城県高次脳機能障害者支援普及事業第一回専門研修会 ・障害者雇用促進セミナー	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ ・働く当事者のリアルな話　聞いてみませんか？（クロスジョブ） ・障害のある人の質の高い就労生活を実現するための就労定着支援セミナー	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ
その他			宮城障害者職業能力開発校委託訓練（6/21～9/20、9/27～12/20）→申し込みなし									
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3

7

令和５年度社会復帰促進事業実績報告会　説明資料

事業所名　就労準備支援センターあぽかぽ

令和６年３月４日（月）

1

モデル事業者の概要

就労準備支援センターあぽかぽ

所在地：宮城県仙台市青葉区本町1-2-5 4F
運営法人：特定非営利活動法人ほっぷの森
提供サービス：
- 自立訓練（生活訓練）
- 就労移行支援事業
- 就労定着支援事業
- 就労継続支援A型事業
- 就労継続支援B型事業
- 指定特定相談支援事業

職員数：46名（常勤換算46名）　参考URL：http://hop-miyagi.org/

2

1．モデル事業者における病院とのネットワーク構築事例

就労準備支援センターあぼかぼ

- 取組の背景・概要
  社会復帰＝復職、再就職に向けて医療機関（主治医、ソーシャルワーカー、リハビリ担当）と情報提供し自立訓練（生活訓練）事業所での様子をフィードバックする。
  地域障害者職業センターと連携し「職業評価」など客観的なデータを取り、支援につなげる。
  就労移行支援事業所に情報提供しながら、就職活動がスムーズに行えるような準備をする。

- 令和5年度の取組の効果・前年度からの課題への対応状況等
  今までも連携している病院を訪問しているので事業について理解していただくことに関してはスムーズに行うことができた。
  しかし、今までのように「就労」を目的とする方だけではないので対象像の確認には更に情報交換が必要となっている。

- 課題・次年度以降に向けた改善点
  今年度は途中から職員体制の変更があり、予定していたような訪問ができなかったので体制を整えたうえで実施したい。
  また、急性期病院から回復期病院へ移る際の選択肢が増えているので、今まで訪問できていないような病院も訪問の計画に入れていきたい。

3

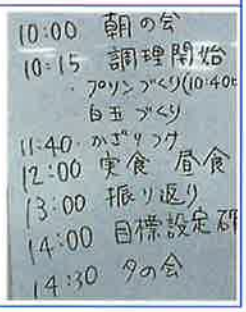
2．モデル事業者における自立訓練提供事例

就労準備支援センターあぼかぼ

- 取組の背景・概要
  病院や家庭とは異なる環境で通所することで、社会復帰するための体力をつける。
  他の高次脳機能障害の方と一緒に活動することで、自分の症状に気づく。
  活動を通して体力だけではなく、「脳疲労」の具合を一緒に確認する。
  他の方としっかりコミュニケーションを取る。苦手な部分を補う方法を一緒に考え試してみる。

- 令和5年度の取組の効果・前年度からの課題への対応状況等
  自立訓練事業が令和5年度から開始した事業なので受託時は発達障害の方1名からスタートしている。
  その後、高次脳機能障害の方も利用開始し、利用することで生活のリズム、体力、他者とのコミュニケーション、脳トレ、調理実習、運動など体調を確認しながら取り組んでいる。
  現在、交通事故の後遺症での高次脳機能障害の方も利用開始しているので継続した支援を行っていく。

- 課題・次年度以降に向けた改善点
  今年度途中から職員体制の変更があり個別支援の難しさが出ている。今後、利用する方の多様性も視野に入れて体制強化をしていく。
  また、他の事業との合同プログラムも含め実施プログラムの検討が必要。



4

3．モデル事業者における地域連携事例

就労準備支援センターあぽかぽ

● 取組の背景・概要

高次脳機能障害の方が地域で安心して生活をするため、主に仙台市内各区で開催している障害者自立支援協議会に参加し、普及啓発を行うとともに連携先をまとめていく。

また、事業内容を理解していただくことで地域に埋もれている対象者の新規利用に繋げていく。

● 令和5年度の取組の効果・前年度からの課題への対応状況等

コロナの5類移行に伴い各会議体が対面式に変更しているため、可能な限り参加し事業説明と高次脳機能障害の普及啓発を行っている。

また、市内に自立訓練事業所が増えたことで訪問や会議、研修会などで情報交換する機会も増えている。

「社会復帰＝就労」の方が多いので就労先企業との連携が必須。就労前の情報提供や就労継続のために定期訪問を実施し安心して社会生活を営むことができるように連携していく。

「第31回職業リハビリテーション研究・実践発表会」に参加し就労後の地域での連携支援についての実践報告を行っている。

また「宮城高次脳機能障害リハビリテーション講習会」を開催し、対面やオンラインにて高次脳機能障害者支援の現状について普及啓発を行っている。

※別添資料を参照お願いします

● 課題・次年度以降に向けた改善点

今年度途中から職員体制の変更があり計画していた通りの訪問ができなかった。あらためて体制を整えたうえで訪問を行っていきたい。また地域連携の一つとして「就労」の場合は「就労先企業」になるので就労定着支援と連携した支援を行っていきたい。

5

4．モデル事業者の取組詳細

就労準備支援センターあぽかぽ

ネットワーク構築

		臨床心理士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	公認心理士	その他
人材雇用	全体	0名	0名	1名	0名	0名	1名
	うち補助金	0名	0名	1名	0名	0名	1名
求人情報発信			－			－	
パンフレット等作成			－			－	
備品類導入			－			－	

	訪問先名	所在地
訪問先病院	【回復期】東北大学病院(1回)	宮城県仙台市青葉区星陵町2-1
	【回復期】仙台リハビリテーション病院(2回)	宮城県富谷市成田1-3-1
	【回復期】長町病院(回復期)(1回)	宮城県仙台市太白区長町3-7-26
	【回復期】泉病院(1回)	宮城県仙台市泉区長命ヶ丘2-1-1
	【回復期】内科佐藤病院(1回)	宮城県仙台市青葉区上杉2-3-17
研修 開催	－	－
研修 参加	第47回日本高次脳機能障害学会学術総会(ワークショップ発表)	※参加者数の確認ができていません
	令和5年度ウェルポートせんだい 高次脳機能障害支援者ステップアップ研修	※仙台市立病院内で開催だったので医療関係者が多数参加していましたが参加人数の確認ができていません(100名以上)
施設見学会	－	－
その他	独立行政法人自動車事故対策機構仙台主管支所訪問	
自動車事故被害者への支援	ネットワーク構築による新規受入件数 0件 ※交通事故以外の高次脳機能障害者 4件	

6

4．モデル事業者の取組詳細

就労準備支援センターあぽかぽ

- 令和6年1月までに行ったネットワーク構築の具体的内容
  既に連携を取っている病院を中心に訪問し事業説明を行っている。今までは休職中で復職を目指す方や再就職を目指す比較的就労準備が整っている方を紹介していただいていたが、リハビリの延長で社会復帰のための生活訓練が必要な方にも情報提供していただくようにお願いしている。
  また訪問の際や電話等で既に紹介していただいている方のその後の状況を共有するなど連携を継続している。

  研修参加欄にある「第47回日本高次脳機能障害学会学術総会（ワークショップ発表）」について、発表資料がございますため、別添「高次脳機能障害者の支援で大切にしていること「就労支援の立場から」を参照ください。

- 令和6年2～3月までに行う予定のネットワーク構築の具体的内容
  令和6年2月20日(火)開催予定
  「宮城県民主医療機関連合会SW部会学習プロジェクト」にて高次脳機能障害者支援について講義とGW
  内容　・易怒性のある方への対応
  　　・家族への声がけの仕方
  　　・社会資源について
  参加者　病院や地域包括支援センターで勤務している社会福祉士や精神保健福祉士など20名を予定

- 令和5年度中のネットワーク構築にあたり特に配慮、工夫等を行った点
  病院を訪問し事業説明する際にも今まで紹介していただいた方の状況を共有しながら具体的な対象像をイメージしていただいている。現在、関わっている方の通院時に同行することで直接、主治医とも話すことができている。今後も可能な限り通院時に同行し主治医とも情報共有していきたい。

- 令和5年度中のネットワーク構築にあたり特に困った点、今後の課題等
  各病院のSWに連絡し訪問するがどの病院のSWも多忙でなかなか日程調整が難しかった。今年度、医師に直接話ができたようにSWに限らずリハビリ担当などにもアプローチしていきたい。また急性期病院から回復期病院に移る際に選択肢が増えているのでまだ訪問できていない病院が多い。地域連携支援での多戦種のネットワーク会議なども活用しながら繋がっていきたい。

7

4．モデル事業者の取組詳細

就労準備支援センターあぽかぽ

自立訓練提供

		臨床心理士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	公認心理士	その他
人材雇用	全体	0名	0名	1名	0名	0名	1名
	うち補助金	0名	0名	1名	0名	0名	0名
求人情報発信			－			－	
パンフレット等作成			－			－	
備品類導入			－			－	
研修	開催		－			－	
	参加		－			－	
その他	かがわ総合リハビリテーションセンター松村様に来所いただき情報共有 千葉リハビリテーションセンターを訪問、見学し寺内様と情報共有						
自動車事故被害者への支援		令和6年1月まで			令和6年2月～3月予定		
	自立訓練	1名　回			1名　回		
	機能訓練				0名		
	退所後支援	現在就労中の方　4名 就労移行利用中の方　2名			現在就労中の方　4名 就労移行利用中の方　2名		

- 令和6年1月までに行った自立訓練提供の具体的内容
  交通事故が原因で高次脳機能障害になった方が機能訓練事業所から繋がってきた際に機能訓練事業所のPTと情報共有、引継ぎを行っている。
  PC入力や脳トレだけではなくウォーキングや運動プログラムを行い脳と身体のバランスを整えるようなプログラムを実施している。

- 令和6年2～3月までに行う予定の自立訓練提供の具体的内容
  上記内容を継続して実施する。

- 令和5年度中の自立訓練提供にあたり特に配慮、工夫等を行った点
  利用している方が高次脳機能障害だけではないので集団で行うプログラムと個別でのプログラムを組み合わせて実施している。

- 令和5年度中の自立訓練提供にあたり特に困った点、今後の課題等
  就労移行支援など就労系のサービスと違い障害程度が様々なのでプログラムの組み立てに工夫が必要。また内容によっては職員体制の工夫を必要になる。

8

4．モデル事業者の取組詳細

就労準備支援センターあぽかぽ

地域連携

		臨床心理士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	公認心理士	その他
人材雇用	全体	0名	0名	0名	0名	0名	2名
	うち補助金	0名	0名	0名	0名	0名	2名
求人情報発信		－			－		
パンフレット等作成		－			－		
備品類導入		－			－		

		訪問先名	所在地
訪問先		リッキークルーズ長町南（生活訓練）（2回）	宮城県仙台市太白区長町南3-3-36　Kビルド2階201
		太白障害者福祉センター（生活訓練、機能訓練）（1回）	宮城県仙台市太白区長町南1-6-10
		みどりの牧場（生活訓練）（1回）	宮城県仙台市若林区新寺2-3-1　長屋ビル402号
		仙台市障害者総合支援センター（1回）	宮城県仙台市泉区泉中央2-24-1
		仙台市障害者就労支援センター（1回）	宮城県仙台市泉区泉中央2-1-1仙台市泉区役所東庁舎5階
		宮城県リハビリテーション支援センター（1回）	宮城県名取市美田園2-1-4
		自動車事故対策機構仙台主幹支所（1回）	宮城県仙台市若林区卸町5-8-3　宮城県トラック会館2階
		宮城県立聴覚支援学校（1回）	宮城県仙台市太白区八本松2-7-29
研修	開催	宮城高次脳機能障害リハビリテーション講習会	180名（対面、オンデマンド合計）
	参加	太白区障害者自立支援協議会	15名
		青葉区相談支援事業所連絡会議	30名
		泉区障害者自立支援協議会	46名
		青葉区障害者自立支援協議会	45名
		第31回職業リハビリテーション研究・実践発表会	
その他		「産・福・学」障害者の一般就労に向けた情報交換会　参加	
自動車事故被害者の地域連携		研修　0件、　連絡　0件、訪問　0件等	研修　0件、　連絡　0件、訪問　0件（Ｒ６．２～３予定）

- 令和6年1月までに行った地域連携の具体的内容について
  「第31回職業リハビリテーション研究・実践発表会」に参加し就労後の連携支援について報告発表しています。
  「宮城高次脳機能障害リハビリテーション講習会」を開催し地域での高次脳機能障害について普及啓発を行っています。
  詳しくは別添の参考資料をご確認ください。

（参考）その他　地域連携支援

＜働いている高次脳機能障害者に対しての本人及び企業支援＞

・東北大学
・財務省東北財務局
・国土交通省東北地方整備局
・宮城県仙台教育事務所
・プルデンシャル生命保険
・仙台市市民文化事業団（コンサートホール運営）
・アイリスオーヤマ（小売業）
・東日本放送（テレビ朝日系列地方局）
・新みやぎ農業協同組合（JA）
・清月記（地元冠婚葬祭業）
・仙台にしむら（マクドナルドフランチャイジー）
・宮城トヨタ
・国立病院機構仙台医療センター
・東北医科薬科大学病院

10

（参考）研修会参加

第47回 日本高次脳機能障害学会学術総会

The 47th Annual Scientific Meeting of Japan Society for Higher Brain Dysfunction

第４７回日本高次脳機能障害学会学術総会
日時　　：2023年10月28日（土）～10月29日（日）
開催場所：仙台国際センター

発表プログラム（貫洞）
「つながる企画１　ワークショップ」
　高次脳機能障害者を支える～就労支援の立場から

総会HP URL https://www.congre.co.jp/jshbd2023/index.html

11

（参考）研修会参加

第31回　令和5年11月8日(水)･9日(木) 東京ビッグサイト で開催

職業リハビリテーション研究・実践発表会

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構では、職業リハビリテーションに関する研究成果等を広く各方面に周知するとともに、参加者相互の意見交換、経験交流等を行うため、「職業リハビリテーション研究・実践発表会」を毎年開催しています。

今年は、障害者雇用をテーマとした「特別講演」、「パネルディスカッション」、分科会形式による「口頭発表」を行うほか、発表者と直接意見交換や質問ができる「ポスター発表」を４年ぶりに再開しますので、ぜひご参加ください。

また、「特別講演」、「パネルディスカッション」については同日ライブ配信し、当機構ホームページに動画掲載（12月頃の予定）も行いますので、ぜひご視聴いただければ幸いです。

第31回職業リハビリテーション研究・実践発表会
日時　　：令和5年11月8日（水）～11月9日（木）
開催場所：東京ビッグサイト

発表プログラム（貫洞）
口頭発表　第4分科会：地域就労支援
「就労定着支援事業における転職支援と今後の連携先について」

開催概要URL
https://www.jeed.go.jp/jeed/press/rib4fd0000003yab-att/rib4fd0000003ybf.pdf

12

（参考）講習会実施

2023年度宮城高次脳機能障害
　　リハビリテーション講習会
日時：2023年10月7日（土）
会場：仙台市医師会館
※会場での対面式とオンデマンド
　配信

ほっぷの森内に事務局があるどんまいネットみやぎ（宮城高次脳機能障害者連絡協議会）が中心となり毎年実施している講習会

過去の講習会については下記URLをご確認ください

https://www.donmainet.com/index.html

13

（参考）研修会実施

資料 5

2023年度（令和5年）　就労定着支援センターほっぷの実　事業報告

1．実績状況

① 利用者の推移

今年度は、年間延べ193名の就労定着支援を実施。ひと月当たりの平均利用者数は16.1名。（月の利用者数及び給付費に関しては別紙のとおり）

今年度の利用者は、全員が就労支援センターほっぷ（以下「ほっぷ」）の就労者となっている。新規利用開始者は4名。

定着支援利用終了者は8名。内訳は、3年間の支援期間満了者が4名、離職による終了者が2名、3月末にて年度更新せず退職となった者が2名となっている。

② 職員の体制

4月から、生活訓練事業「あぽかぽ」の開始に伴って就労定着支援員が1名抜け、3名体制から2名体制で実施。8月からは1名が産休および育休により休暇に入ったため、就労移行支援から1名兼務で入り2名体制を継続。

担当者が変わることに関して、ご本人や雇用先企業の方が不安や混乱がないように、2～3か月かけて担当する支援員と一緒に企業を訪問しながら引継ぎをおこなった。

2．就労定着支援の実施状況

① 支援への取り組み

今年度はコロナウイルス感染症対策による訪問等への影響なく、引き続き感染対策を講じながら訪問、支援を実施。月1回から数回、その方の状況に応じながらご本人との面談や就労先の方からの聞き取り、必要に応じてご家族や相談支援事業所と情報共有、通院先とも関わりながら就労の継続に努めた。

定着支援中で4月に転職した方が1名いるが、残りの利用期間が少ないため、前職での課題や対処法等を念頭に置きながら支援を実施。環境や雇用状況も変わり無理なく継続できている。

ご本人のケガやコロナウイルス感染、病気によるお休みとなる方もおり、電話やメール、ケガや病気の方には病院への同席、面談をしながら、状況を把握し、仕事先との情報共有を実施。復帰にあたっては調整をしながら支援を実施した。

② 新規に関して

新規利用開始者が4名。利用開始まで面談や手続きの調整で予定月に始められなかっ

た方もいた。雇用時に定着支援の制度の説明はしているので、準備ができることは早めに確認しながら動き、できるだけ開始可能月からの開始が望ましいと思われる。

③ 終了者に関して

定着支援利用終了者は８名。

（支援期間満了４名、離職による終了２名、年度更新終了２名）

３年間の就労定着支援期間終了者が４名。内１名は病気により入院となり復帰月が支援最終月で、リハビリ的な復帰計画や業務対応面での課題もあったため障害者職業センターに相談。ジョブコーチ支援に繋ぐことができた。１名は安定した就労に繋がってはいるが、終了に際して、雇用先の担当者から毎月の支援がなくなることでちょっとした確認や共有ができなくなることへの不安が聞かれた。そのためウエルポート仙台と連携して職員研修を実施。ご本人にも話して頂き高次脳機能障害に関しての理解と今後の安定した雇用につなげた。２名は雇用先の担当者と想定される課題や対応等を確認。基本的にはほっぷの終了者として今後先輩会等でフォローしていくこととした。継続して必要な課題が明確にあるわけではないが、これまでの関わり方から、支援者と繋がっていたいという気持ちが双方に見られた。就労定着支援は利用期間が決まっているため、より安心できるナチュラルサポートの必要性を感じた。

離職となった２名は、面談をし、本人の希望を確認しながら終了とした。

年度更新終了に伴う退職者２名は、いずれも若年性認知症の方。新たな就労は難しく、相談支援事業所を入れながら活動先（B 型事業所も視野に入れての）の検討となった。

4. 他機関との連携

支援終了時のつなぎ先として、障害者就業・生活支援センターわ～くが主となっているが個々の必要性（ニーズ）を見極め、実際にはこれまでの関りから、ウエルポート仙台や宮城障害者職業センターにつないだ。

相談支援事業所との連携が重要なケースもあり、随時情報共有を図りんがら支援を実施した。

5. 会議、研修

①所内

利用者がほっぷ卒業生が主なのと、仕事帰りに立ち寄ることも多いこともあり、週１回のほっぷの会議の中で、必要に応じて支援状況の情報共有や検討を実施。

定着支援としては、月に１回会議にて支援状況（課題、計画、取り組み等）の確認を実施。

②外部

・若年性認知症自立支援ネットワーク会議にて、就労支援について事例発表。

・職業リハビリテーション研究・実践発表会にて、就労定着支援での転職支援について事例発表。

・職場適応援助者（ジョブコーチ）養成研修受講

就労定着支援センターほっぷの実
管理者　平山　昭江

別紙

月	利用者（人）	給付費（円）
4	15	456,018
5	17	472,148
6	18	518,529
7	18	510,138
8	19	510,138
9	18	499,075
１０	16	437,972
１１	16	409,897
１２	16	409,897
1	14	384,629
2	13	356,554
3	13	372,341
計	193	5,337,336
平均	16.1	444,778

資料 6－1

2023年度（令和5年）TFU Cafeteria Olive 事業報告

TFU Cafeteria Olive について

3年休業だったこともあり、様々なことがいちから再スタートとなった。
集客と売上、理想と現実、なかなか物事が噛み合わないズレを感じながら我慢の1年となった。

5月からの夜営業に関しては大学様との協議の上、貸切営業のみのスタート。年間で107件の貸切【コンサート73件（ティー55件、ディナー18件）懇親会等34件】。コロナ後ということもあり夜の貸切は少なくティータイム利用が多かった。

前料理長が疾患により退職。9月より新しいシェフを迎え再スタートを切った。
10月から8名様以上少人数予約での夜営業もスタートとした。クリスマスコース料理、オードブル予約のチラシを作成DMでの告知を行った。

又、ICT機器を活用しオーダーエントリーシステム、福祉支援・給付費請求ソフトを導入し効率的なシステム作りに取り組んだ。ホットペッパーとWEB契約。WEBからの予約（コース料理、席予約、オードブル予約、コンサート予約）も可能となった。

昼営業に関してはほぼコロナ前に近い売上となってきているが夜営業の集客増に向けてはまだまだ底上げが必要。平日夜の利用を増やすために金曜日の夜音楽を入れての営業を検討。2024年4月からスタートすることで準備を進めてきた（ムジカ・デ・オリバ）。金曜夜ばかりでは無く他の平日夜も音楽を入れ楽しんでいただけるレストランとして取り組んでいきたい。

びすた～り榴ヶ岡について

料理、お弁当ともにお客様から良い評価をいただいている。大きな窓から榴岡公園の自然を感じながらお客様も束の間のランチタイムを楽しんでいただいている。車での営業の方など駐車場があることもランチタイムの利用し易さに繋がっており、常連の方が増えて来ている。

毎月アートインクルージョンの作品と連携しコンサートを開催。アートインクルージョンの商品やこだわり醤油や味噌なども販売している。

貸切営業は20件。ランチタイムは常に満席の状況が続いているが夜の利用までにはまだ繋ぐことができていない。12月23日のクリスマスディナー（フレンチコース）は予約で満席となりピアノの生演奏とともに家族や友達、大切な方とのクリスマスを楽しんでいただいた。夜予約でのフレンチコース、お弁当予約など積極的に告知し広げて行きたい。

TFU Cafeteria Olive
管理者　菊田俊彦

2023年度オリーブの活動について

2020年4月から始まった東北福祉大学仙台駅東口キャンパス閉館によるレストラン休業であったが2023年5月8日新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類感染症へ移行したのと同時に3年間に及ぶ長い長いOliveの休業が終わった。今までは大学のギャラリーミニモリの展示期間中のみ開いていた正面玄関が開き、お客様も自由に入店することが出来るようになった。びすた～り榴ヶ岡と、限られた日のみOliveで代わる代わる勤務していたスタッフ達も、久しぶりに2店舗で本格的な仕事が出来るようになった。

思えば、2019年12月末に長町遊楽庵びすた～りが閉店。スタッフ12名全員でOliveへ移動し総勢18名で新たなスタートをきった矢先の休業だったこともあり、2023年はスタッフそれぞれが「みんなで働く」ってこんな感じだったかな？と思い出しながらの再スタートとなった。スタッフ達はだいぶ落ちてしまった体力を復活させたり、久々に働く仲間とのコミュニケーションが楽しいと感じたり、時にはそれがストレスと感じる時もあったりで、時折お互いの気持ちの交通整理をすることもあった。

しかし、長い在宅支援期間中にそれぞれに目標を掲げ培った知識や、自分自身の特性や強みを知ったり、健康管理を頑張ったりしたことも、その後の仕事に生かせていると感じるスタッフも多かった。また、悶々とした休業期間を乗り切ったからこそ、日々の生活の中で当たり前に仕事が出来る喜びや充実感を感じながら、がむしゃらに走った1年ではなかったかと思う。

サービス管理責任者
安斎　純子

【1年間の動き】

<4月>　びすた～りでは榴ヶ岡公園のお花見シーズンとなり、かなりの忙しさとなった。お弁当の予約もかなり増え、力をつけたスタッフ達が前日の準備などにも携わっている。ホールはスタッフを2名→3名、調理場は2名を時々3名の体制とした。在宅支援はまだ継続中。

<5月>　5/8～Olive営業再開。座席数の制限をなくし、テーブルのアクリル板も撤去した。営業時間を10:30～11:30モーニング（ピザトーストやフレンチトースト、コ

ーヒー等の提供）11:30～14:00 ランチタイム、14:00～17:00(L.O16:30)ティータイムとし、ランチタイム以降も閉店までピザ等の軽食を提供。福祉大ギャラリーミニモリでは河北美術展が開催。10 日間ではあったが、連日 100 名近いお客様がありスタッフ達は一気に仕事モードに切り替わった。在宅支援は 1 日 2～4 名とし、貸切営業の日は在宅はゼロとした。出勤人数が増えるにあたり、出勤時間を 9:30～16:30 と 11:00～18:00 と時差式出勤を取り入れた。また 11:00 出勤のスタッフがほっぷへ弁当配達をしたり、休憩時間をずらす等人員のコントロールをおこなった。

＜6 月＞ 展示等のお客様ではなく、一般のお客様や近隣の会社員の方の来店が増えリピーターも出て来た。安定して 30～40 名のお客様が来店しスタッフ達も仕事のリズムがつかめて来た。Olive はびすた～りに続きリクルートの Air エアレジを導入。口頭ではなく iPhone を使いオーダーを入れるようになった。

お客様も増えコーヒーのオーダーも増えて来た。それに伴いスタッフ 3 名で行っている自家焙煎が間に合わなくなった為、定休日の月曜日にパートナー1 名とスタッフ 1 名が出勤し、1 日焙煎を行い安定した在庫を確保していくことにした。

また、コロナウイルス感染者が 5 名でてしまいスタッフは数日間自宅待機とし、パートナーのみで縮小ランチタイムを行った。びすた～りでは感染の可能性のないスタッフが、毎日検査と健康チェックを行いながら営業を継続した。改めて一気に感染が広がる怖さを実感し、健康管理や休憩室で食事の際の人数のコントロール、換気等の対策の重要性を感じた。在宅支援は完全終了とし全員が週 5 日働けるシフトとなった。

＜7 月＞ びすた～りではシェフの指導の下、力を付けた調理場スタッフが自らメニューを考え、調理も行いお客様にランチを提供し好評を得た。その後も定期的に行い、より力と自信を付けている。Olive ではティータイム貸切だけでなく夜貸切が増えて来た。福祉大の貸出教室のお客様の弁当の予約や教室での研修会後の食事会等の利用も増え、準備や片付けにスタッフ関わって行けるようになってきた。14:00～21:00 勤務が出来る遅番スタッフ(4～5 名)も活躍している。

<8月> ランチタイムピアノ生演奏(無料)開始。びすた～りは(火)、Oliveは(木)(金)に開催し一味違ったランチタイムとなっている。その後ピアノ演奏目当てで来店するお客さまもおりピアノの日の来客数はそれなりに多くなっている。

<9月> 福祉大ギャラリーミニモリで河北書道展開催。ティータイムがかなり賑わった。デザートの盛り合わせや、軽食のピザの調理等を器用なスタッフ達が覚え、ひとりでも盛付けが出来るようになった。リクルートの福祉会計システム「knowbe」を導入。スタッフ達も今までの紙式のタイムカードではなく、iPadを使い指でタッチする形式のタイムカードとなった。なかなか指でタッチが出来なかったり、押し忘れてしまうこともあったが、徐々に慣れてきている。Oliveとびすた～りの2か所のタイムカードがPCで一元管理出来る為、給付費請求や給与計算などの効率化が図れている。

<10月>今迄はOlive、びすた～り両方を掛け持ちするスタッフと、びすた～り完全固定の調理場スタッフとがいたが、Oliveの予約の状況により両方を担当するようになった。それぞれのシェフの下でいろいろ技術を学ぶ機会が増えた。Oliveでは大学貸出教室利用のお客さまから初の弁当200個の予約を受け、パートナー、スタッフ総出で調理から弁当箱回収まで対応することが出来た。びすた～りではスタッフが献立、仕入れ、仕込みと全てに関わり国産素材にこだわった和風出汁鶏塩ラーメンの提供を行った。煮卵、チャーシューまで全て手作り。在宅期間中に家で試行錯誤しながら試作品を作っていたことが商品に繋がりお客様の評価を得ることが出来た。

<11月>Oliveはランチタイムメニューを5種類に増やした(おまかせ・カレー・ハンバーグ・パスタ・さば味噌煮)夜貸切が増える年末に備え、ランチタイムはシェフ以外の昼間のパートナーとスタッフで真空したものを温めて盛付けする体制作りを行った。

<12月>両店ともにリクルートのWEBホットペッパーへの掲載を開始。WEB予約　でき、コンサートやディナー、オードブル等を掲載し集客に繋げていくことにした。

<2月>毎週金曜日のみ夜営業を開始した(17:30～21:00 L.O20：30)

Oliveはホットペッパーのポイント利用客が増大。1500ポイント(￥1500)を利用す

る方が多く、高額商品のオーダーが続々と入った。スタッフ達もAirレジの操作になれ会計時に活躍している。

<3月>びすた～りではお弁当の予約が多かった。学校関係、市民センターやイベント会場等、DMにより新しい顧客も増えて来た。

【スタッフの動き】

①GH利用開始　2名（一人暮らし、親元から）

どちらも相談支援事業所ほっぷの木と連携をしながら進めた。お酒やタバコ等の健康管理や身辺自立が必要なスタッフであったが、GHでの細やかな支援を受けながら順調に新しい生活にも慣れ、仕事に集中することが出来ている。

②一般就労に向けての取り組み　2名

・在宅での活動中も一般就労に向けての取り組みを続けていたスタッフではあったが、60歳となり今後の働き方について再度見直しを行った。体力面や通勤面から自宅から近いA型事業所への移行の申し出があり見学や実習を行った。(2024年4月に移動)

・名取市でベビーリーフ等のハウス栽培をしている「はーとふる農園名取」への見学実習を行った。畑作業や農作物への興味があった方で特殊な形態の一般就労であるが、確認をとりながら慎重に進めた（2024年5月就職）

【パートナー】　(3月時点で10名　うち育児休業中1名)

入替えの多い1年となった。8月に昼間の調理場パート職員を1名採用。同時にOpen当時より調理場で働いていたシェフが持病療養により3ヶ月間の休職後退職。9月に正社員で新しいシェフを採用。

その他12月ホールパート職員を採用したが、定着せず1月に退職。

2月に正社員ホール職員を採用している。求人募集をかけ続ける1年であった。

【パートナー研修】

計画に基づき7名が研修に参加した。営業の傍らオンデマンド配信での研修となったが、昨年同様パート職員も仕事の中で時間を作り学ぶことが出来た。

・A型のあるべき姿とは（オンライン）　1名

・ダウン症の成人期に見られる症状と対処法（オンライン）　1名

・高齢化する知的障害のある人の退行性変化について（オンライン）１名

・高次脳ピアサポーター養成講座（Zoom）　１名

・高次脳機能障害リハビリテーション講習会（動画配信）　２名

・障害者差別解消法に係る説明会（オンライン）　２名

・仙台市感染症対策オンラインセミナー（オンライン）　１名

・応用行動分析(ABA)の考え方(オンライン)　１名

【健康診断の実施】

2024 年 1 月～2 月実施。

昨年は生活習慣病につながるような数値となり健康指導が入るスタッフ、パートナーが多く見られたが、今年度はなし。

昨年、仕事のベースとなる「健康」を意識して生活することの大切さをスタッフと話しあったが、今年は健康診断を１つの目標とし健康管理していたスタッフも多かった。在宅を終え単純に仕事での運動量が増えたという見方もあり。

【避難訓練の実施】

１月実施（みやぎ NPO プラザ、東北福祉大学と合同）

福祉大の避難訓練では、初めてスタッフ１名も参加。接客業としての避難訓練の大切さを実感していた。

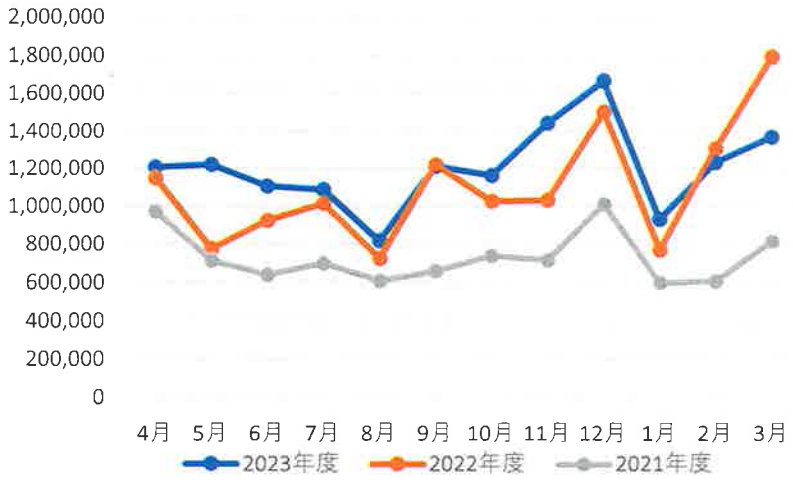
資料 6－2

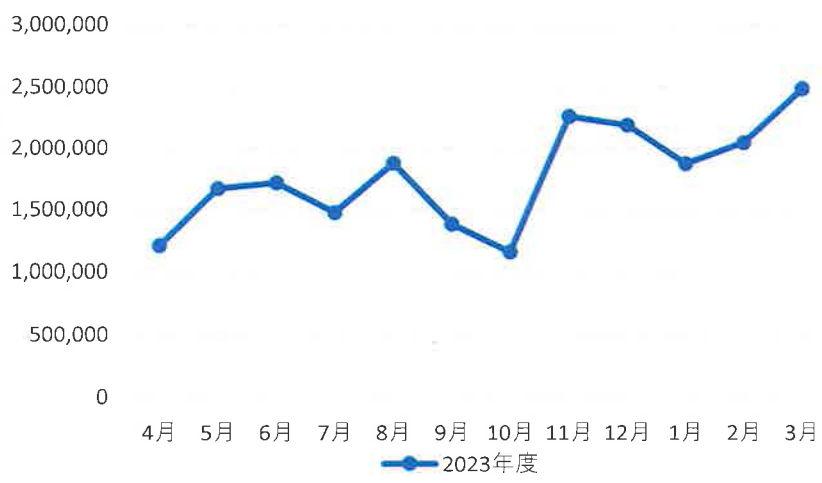
2023年度　びすた～り榴ヶ岡　売上

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
2023年度	1,201,160	1,215,130	1,100,360	1,082,470	811,810	1,207,490	1,158,070	1,439,360	1,663,500	927,380	1,229,410	1,365,980	14,402,120
2022年度	1,146,550	773,860	920,910	1,011,650	721,280	1,216,260	1,022,070	1,029,370	1,502,320	766,870	1,306,700	1,794,830	13,212,670
2021年度	969,740	712,040	640,100	698,630	608,290	659,180	738,350	715,410	1,011,320	599,050	608,080	812,920	8,773,110

2023年度　TFU Cafeteria Olive　売上

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
2023年度	1,199,940	1,661,500	1,707,370	1,467,530	1,869,060	1,374,500	1,148,790	2,255,000	2,183,160	1,867,020	2,038,440	2,481,940	21,254,250





2023年度（令和5年）　びすた～り榴ヶ岡　お弁当予約・貸切営業

商品名	月	4		5		6		7		8		9		10		11		12		1		2		3		合　計		
	価　格	件	数	件	数	件	数	件	数	件	数	件	数	件	数	件	数	件	数	件	数	件	数	件	数	件	数	売上金額
お弁当	800			1	20																					1	20	16000
	900			1	66																					1	66	59,400
	1,000	4	116	7	111	9	136	3	33	3	31	12	259	4	124	7	180	7	87	4	35	5	81	8	147	73	1,340	1,340,000
	1,200																									0	0	0
	1,500	4	44	4	67	3	47	2	36			1	10			3	104	6	119	2	17			6	100	31	544	816,000
	2,000			1	8									1	11									1	19	3	38	76,000
	2,500							1	3																	1	3	7,500
オードブル	2,500																					2	2			2	2	5,000
	3,000	1	1																							1	1	3,000
	3,500			1	1																					1	1	3,500
	3,800			2	2	1	1													2	2					5	5	19,000
	5,000							1	1	1	1			1	1											3	3	15,000
ティー貸切	1,300	1	20	1	18	1	20	1	19			1	16	1	18	2	32	1	18							9	161	209,300
ディナー貸切	3,000							1	1	2	20					1	14	3	38	2	27	1	21	1	10	11	131	393,000
合　計		10	181	18	293	14	204	9	93	6	52	14	285	7	154	13	330	17	262	10	81	8	104	16	276	142	2,315	2,962,700

資料 7

２０２３年度（令和５年）　びすた～りフードマーケット事業報告

２０２３年度 20 代の２名（畑担当、JhoJho）のスタッフが入所。合計 24 名在籍（内 1 名在宅勤務）スタート。入所の 2 名のスタッフは、環境に慣れるのも早く、他のスタッフと共に仕事に取り組むことができていた。途中 JhoJho 長く在籍していたスタッフ１名（高次機能障害の方）が退所となり３月末には在籍２３名となった。

コロナも５月より５類になったものの、集団生活ということもあり、引き続き感染対策をしながらの生活となった。フードマーケット、JhoJho それぞれ施設内では、スタッフが密にならないように、時差を作りながらの活動は継続した。それでも、施設内での感染はなかったものの、生活場面での感染があり、感染のたびに１週間程度の欠勤という形になってしまうケースがあり、今後も対策の必要性を感じた。

長く在籍しているスタッフが生活を GH に移す方など、変化のある１年だった。それぞれ変わった環境の中、関係機関と連携しながら、安定して過ごせるように努めた。仕事面では、それぞれの仕事の向き合い方、出勤の仕方など多様になり。それぞれに合った仕事の仕方を探ったり、関係機関との連携を密にしながら、安定して過ごせるよう努めた。

びすた～りフードマーケット
サービス管理責任者　伊藤敬子

【２０２３年度スッタッフ在籍数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
入所	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	年平均出勤人数
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
在籍合計	24	24	24	24	24	24	24	23	23	23	23	23	
平均利用人数（日）	21	21.3	21.8	19.9	19.5	21	19.4	20	20	19.3	20.1	20.3	**20.3**
退所内訳									他Ｂ型事業所				

【２０２３年度３月末現在年齢別在籍数】

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	0	4	5	1	1	2	13
女性	0	6	1	1	1	1	10
合計	0	10	6	2	2	3	23

（２０２４年３月現在）

びすた～りファーム野菜（野菜、筍、筍ご飯の素）、総菜他売り上げ。

	野菜（店舗、Jho）	たけのこ	筍ご飯の素	惣菜（店舗、Jho）	デザート（店舗、Jho）	ジャムなど（店舗、Jho）	漬物（店舗、Jho）	オードブル他特別注品	びすた～り、olive惣菜
2017年度	￥469,584	￥65,290							
2018年度	￥446,765	￥235,580	￥21,200						
2019年度	￥373,061	￥171,540	￥30,400						
2020年度	￥266,410	￥156,090	￥48,050	￥278,630	￥140,600	￥37,600	￥104,410	￥89,000	
2021年度	￥361,263	￥133,090	￥52,330	￥214,110	￥185,400	￥31,750	￥57,450	￥70,200	
2022年度	￥256,822	￥241,340	￥41,050	￥267,173	￥251,550	￥25,500	￥74,430	￥12,000	
2023年度	￥343,090	￥185,600	￥24,450	￥123340	￥307,200	￥34,300	￥81,380	￥28,700	￥621,180
備　考		裏年		筍ご飯、冷凍総菜を含む	パンナコッタ チーズケーキ カタラーナ	ジャム、ソース、ドレッシング、梅ジュース	ラッキョウ漬の売り上げが良かった。	お弁当等	牛スジカレーハンバーグ等

１．畑作業

畑作業専従のスタッフ１名加入し、力仕事など協力して行えるようになり助かった。継続して施設外就労で MITU さんにお世話になり、気温が高い夏もスタッフ皆で協力し作業をすることができた。

柳生（メイン畑)、ハウス、河原、竹林、と４か所の畑を貸していただきながら作付けを行ってきたが、ここ数年なかなか手が回らない現状が続いていた、結果、畑が雑草に覆われてしまう事になり、メインの畑のみとし、ハウス、河原は地主さんに返却をすることにした。冬に入り、返却に向けて環境整備を行った。

① 栽培

柳生の畑を中心に、販売用、調理で使える一般的な野菜を中心に作付けした。葉物、人参、大根、玉ねぎ、ジャガイモなどは多めに作った。補助金により購入した焼き芋機の活用のためサツマイモの作付けにもチャレンジした。

② 収穫

玉ねぎやじゃがいも、葉物などの定番野菜の収穫量は安定している。保管場所などの課題はあるが、販売用と調理用のバランスを取りつつ、各部門で連携を図りながら収穫した。

人参がたくさん収穫でき、質も良かった。大根と共に土中保存し無駄のないように使用することができた。

チャレンジしたサツマイモは、焼き芋にするには、保存期間が重要なため、数カ月熟成している間に、食害や、温度管理が難しくダメにしてしまうものが多く残念だった。(以前チャレンジした時にも課題だったため、ビニールハウス保管をしてみたが効果が変わらなかった)

③ その他

返却する河原の畑が竹の浸食があり、皆で竹を抜く作業を行った。

2．店舗

昨年度に引き続き 5 類後もコロナ感染防止のため消毒液の設置、店担当者のマスク着用、店舗ドアを開放し換気をしながら営業を行った。

新レジでの集計が今年度 1 年間できたため、売り上げ集計などがスムーズに行えた。

コンセプト

びすた～リファームで収穫した農薬化学肥料不使用のおいしい野菜を提供、販売。

近隣の農家さんから仕入れた野菜の販売を行う。

① びすた～りファームの野菜

収穫した野菜を調理用と販売に選別、バックヤード調理場と連携し B 品は調理で使用した。Olive、びすた～りにも野菜の納品を週 1 回定着したことで、余り過ぎることなく利用できた。

冬野菜の大根、人参も「ここのはおいしい！！」というお声を頂き、以前はなかなか売れなかった大きな大根も良く売れた。

② 店舗担当スタッフ

2 名が定着している。初心にかえり、「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」を定着できるようにした。（お客様との距離感など課題あり）

今年度も引き続きお願いし、仕入れ業者様の納品書の整理作業も店舗の仕事として定着し、パートナーの仕事の補助となった。

③ 外販、移動販売

木、金の引き売り継続して行った。顧客が決まっている為、スタッフも回りやすいものの、新たなお客様の開拓は難しかった。ただ歩く中、購入してくださるお客様もいたり、「重たい野菜がある時に寄ってみて」というお客様宅に寄ることもあった。

イベント等の参加はなし。広瀬川の灯篭流しも花火がなくなった為、店舗前での販売は行わなかった。

④ 仕入、オリジナル商品の販売

・フードマーケット冷凍総菜・ジャム・漬物、焼き芋

・冷凍総菜は、ハンバーグ、サバの味噌煮に絞って販売、決まったお客様が購入することが多かった。冷凍庫等外からは見えない状態のため、今後は工夫をして行く。

・昨年度に引き続き、焼き芋の販売を行った。びすた～りファームのサツマイモが

熟成しおいしくなるまで待ったが、傷んでしまったものも多くもったいないことになってしまった。大家さんが市場で仕入れたものもを中心に継続的に焼くことができたが、サツマイモの時期（秋）に焼き芋用のサツマイモが熟成時期になってしまい品薄になってしまい難しさを感じた。燃料のプロパンガス、手数料が値上がりし効率よく焼くようにした。冷凍焼き芋の販売も「おいしい」と購入していただけた。

オーサワ商品

・毎月発注し。固定客の方には事前に連絡をして注文を聞くようにした、近くの方には配達を行った。(車)

戸叶農園さん

・昨年度から継続して、直接受け取りに行く形となり、色麻町のため、なるべく売れ筋の物やお米、豆などを仕入れた。

赤路農園さん

・畑を手伝いながら、季節物として、青梅、柿などお知り合いから譲っていただきながら販売につなげた。

※赤路農園さんと戸叶さんはなるべく同じ日に対応できるようにした。

小林農園

・畑で大量にできた野菜をその都度仕入れた。ファームとダブル野菜もあったが、イチジク、里芋など、ファームにはないものも提供していただいた。

山路農園（主に慣行栽培、レタスなど農薬不使用や減農薬の物もある）

・夏場に慣行栽培ではあるがきゅうり、オクラ、ナスを定期的に仕入販売は定着した。

・規格外の玉ねぎを知り合いの農家さんにも声をかけていただき、大量に仕入、調理用として利用した。びすた～りや olive へも卸すことで、痛めてしまうことなく使い切ることができた。

⑤ 季節の商品

・筍（裏年)、梅、ラッキョウ、柿（干し柿、チップ）など、季節の野菜を売っている場所として時期に来店されるお客様が定着してきた。筍は特に、「他の物は食べられない！！」というお声を頂いた。裏年ではあったが、水煮もたくさんできたためゴールデンウィークに、びすた～りにも協力していただき、店内で販売していただいた。

・梅は、柳生だけでは足りず、赤路農園お知り合いより仕入れた、梅漬け、梅ジャ

ム、梅ジュースの加工し販売したり JhoJho のメニューに入れて提供した。梅漬けも製造。

・柿は、柳生、赤路農園お知り合いや三浦農園から収穫させていただき、干し柿用として販売したり、好評だった干し柿チップも作った。

・セリは、安定して仕入れができたため継続し販売を行った。

3.フードマーケット調理場

① JhoJho の料理、惣菜作成について

フードマーケットの野菜を使いメイン料理に野菜を添えながら工夫した。人気のハンバーグ、サバの味噌煮も多めに製造し、総菜販売を継続した。たけのこご飯の素も製造販売した。

7月より、olive、びすた～り向けのハンバーグ、牛スジカレーを製造、卸を行った。

スタッフの仕事としては、玉ねぎの皮むき、真空作業など、単価が高い為、良い収入にはなった。

② 調理場内のスタッフの作業について

フードマーケットの調理場で作業するスタッフは昨年度と変わらないが、それぞれ安定して仕事をしている。包丁を使って野菜を刻む作業も口頭の指示だけでできその出来栄えも良くなっている。また HACCP の記録も忘れずに記入してくれて大いに助かっている。

③ 売上向上とコスト削減などへの取り組みについて

原材料高騰への対応策としてランチメニュー作成での肉、魚の主材料の使い方を工夫した。具体的には揚げ物の回数を減らし油を節約する事、肉、魚の一人当たり使用量を減らす代わりに野菜を増やし料理自体のボリュームや見栄えは変わらないようにした。こうした積む重ねで食材原価を抑えるようにした。また畑での収穫作業やバックヤードの作業との連携をこれまで以上に図り、作業効率の向上と野菜を主に食材の廃棄ロスの減量につとめた。

4．バックヤード（2階での作業）

スタッフ皆が長年バックヤード作業をしているため、ある程度勝手もわかってきている。階段の上り下りに関しても、自分で買い物かごを準備して危険のないように

降りるなど自発的に行えている。

作業の際の準備、片づけ（椅子の片づけ、机の移動、ビニールシートの準備など）も極力スタッフが自主的に進めるように心がけた。自発的に動くことが難しいスタッフに対しては最低限の声がけ、重いものを持つのが難しいスタッフには机拭きやシートたたみなどスタッフの特徴に合わせた作業を行うようにした。

①収穫、仕入れた野菜・・・選別、計量、袋詰め、値札貼り付け作業など、スタッフを分担して作業を行った。

選別は大まかな選別から細かい選別まで、スタッフの能力に応じて流れ作業で担当してもらい、最終的にパートナーが最終チェックを行うよう心掛けた。

計量については指定した重さを記憶に留めておける為、以前のようにメモ用紙に書いておく必要もなくなってきている。袋詰めに関してはまだその野菜に応じた大きさの袋を選べないスタッフもいるが、周りのスタッフにすぐ聞かずに自分で考えて選べるようにしていく。ニラなどばらけてしまうものが袋からはみ出て終わりにしている時もある為、今後も新聞で包みながら入れるなど練習していき、きれいな仕上がりになるようにしていく。

※セリ

販売用のセリは毎週 1/3 カゴペースで仕入れていた為選別の時間もあまりかからずにできた。いな穂様用のセリも選別済みのものをそのまま配達。

②JhoJho 食材用野菜の下処理

野菜の皮むき、セリの根っこ切り等。選別や計量よりも好きなスタッフが多く、積極的に引き受けてくれた。必要な道具なども準備し、すぐに取り掛かることが出来ていた。今後の課題として、どうしても時間を気にせずマイペースで進めてしまうことが多いので、締め切りの時間に間に合うように取り組めるような支援を考えていきたい。

③内職作業・・・今年度はなし。セリの入荷がない場合や収穫の谷間の時期などに行えるよう、検討していく。

④袋の作成

収穫物が多い時期などはまとまった量を作れないため、野菜の作業が少ない時期に作りためをしておく。工程の最後まで折ることが難しいスタッフには工程を分け、途中の簡単な折り作業までを担当してもらうようにした。スタッフ毎に得意な工程があるため、それを活かして効率よく作っていくことができた。また、JhoJho の売店で使用する紙袋作りも並行して行った。わら半紙がなくなった為、こちらも新聞紙を使い貼り合わせたりするなど普通の袋より工程が増えるため、手分けして行った。

⑤その他

・作付け用の種まき…今年度はなし

・外冷蔵庫掃除、駐車場草取り…ほぼ毎月、定期的に実施。

5．Ｃａｆｅ　ＪｈｏＪｈｏ

２０２３年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大が少し落ち着いてくる一方、インフルエンザや風邪の流行に影響されながらも継続して営業を続けることができた。

今年度も感染者数に関わらず席数は減らしたまま営業し、感染防止対策をしっかり行った。変更点として、病院様と相談し、対面シールドをカウンターのみとした。検温は、引き続き自宅と JhoJho での検温をお願いし表に記入他、朝礼時にパートナーが検温し体調の確認を行った。

作業後の休憩室での密も避けるように時差退勤を継続した。

① 利用状況

前年度同様、感染防止対策での席数減や作業内容によりランチタイムは忙しく動き回る日も多かった。繁忙時間は店内入り口も混みあうため、換気も兼ねて、店舗入り口ドアを開けておくことで、入店を迷っているお客様へお声がけしやすいようにした。病院関係者様の他、一般のお客様もご利用いただけた。

お席待ちのお客様に関しては、事前に注文を取ることで席に着いたらすぐに提供されることが浸透しているので、待たずに帰るお客様はほとんどいなかった。

アレルギーがあるお客様や糖質制限をしているお客様に他メニューのお食事を準備したり、ごはんの計量や、サラダに変更、高齢のお客様には刻みの対応などお客様が

離れないよう柔軟な対応を行った。

デザートはたくさんのお客様に注文いただき、特にチーズケーキの注文が増え週に１、２回仕込むようになり、スタッフが関わる作業の１つとなった。

売店利用は、はなみずき入居の常連のお客様、一般のお客様、職員様にもご利用いただけた。はなみずき入居者の方の他にも、ご高齢のお客様も多く、物忘れなども増えており必ずメモを取ったり、お席での先会計などを行いトラブルを避けた。

お席に着く際にパートナー対応が必要なお客様もおり他のお客様への対応がおろそかになったり、料理やドリンクの提供が遅れるなど苦情にならないよう努めた。

② スタッフの状況

４月に１名入所、１２月に調理場スタッフ退所。調理場スタッフ（高次機能障害）１名加齢に伴い、整容など難しくなり１０月～ディサービスを週２日（水、土）利用と併用となった。調理場専属スタッフ不足分をホール兼任スタッフやフードマーケットからの助っ人で担った。（今後調理場スタッフの入所が急務）

３月末現在、JhoJho 専属スタッフは毎日出勤のスタッフが３名、週４出勤のスタッフが３名、週３出勤のスタッフが１名の７名。FM から火曜日のみ JhoJho フル出勤スタッフが１名、ＦＭから１ｈ助っ人スタッフは１名増え６名で対応した。

精神障害をお持ちのスタッフは１年を通して不調が続き、欠勤や早退、入院や自宅療養、出勤してみたものの食事を摂るのみで作業は難しく帰宅（病院へ行く）することが続いた。そのため、出勤スタッフでその日に応じて作業場所を変更してもらうこともあった、負担にならないよう話を聞きながらお願いした。

スタッフ配置人数状況　（３月末現在）

	ホールフル	調理場フル （短時間）	パントリー洗い物 12 時半～15 時	FM 助っ人 12 時～13 時
月	③	② 11：30～14：30　①	①	①
火	③ １０～14①	① 15～16　①		②
水	④	⓪ 10～14　①		③
木	③	② 10～14　①	①	②
金	③	① 10～14　① 15～16　①	①	②

安定して通所出来るスタッフ、目標日数通りに出勤が難しくなっているスタッフ、体調の変化があり休憩をするスタッフがいる中、任せられる仕事を増やせるように新しい作業にも挑戦した。一人ひとりしっかり力を付けることができた。出来る事が増えたことで負荷がかからないように繁忙時間帯以外は自分のペースで休憩の回数・時間を決めて無理のないように過ごした。

JhoJho 在籍スタッフ一人ひとりの作業量増加やスピードアップは現状をキープすることが目標となっている。

また、週５日通うことが出来ない方、精神的な部分で体調が安定しない方もおり、FM のスタッフ・パートナーの力を借りなければ難しい現状は変わらない。

③ ホール・パントリー

お肉とお魚はご飯・味噌汁がお盆に載った状態の配膳はホールスタッフ２名に配膳を任せられるようになった。荷物が多いお客様やテーブルが狭い場合などは前年同様パートナーが配膳した。

ご飯・味噌汁のお替りのお客様へ丸お盆でお持ちすることは今年度も練習し任せられるようにはなった。

接客以外の仕事として、フードマーケットに行って野菜や売店販売商品を持って来てもらう（JhoJho 便)。

伝票の色塗りや値札切り。一つの作業の継続が難しい方には何種類かの作業を準備し選びながら作業してもらうことは継続して行った。

④ 調理場

メニューは継続し日替わりの肉、魚セット、定番として、カレーライス、季節で変わるう～めん、う～めんダブルを提供した。

ランチ前の時間にご利用いただける「鶏がゆ」と「トーストセット」は多くは出ないが楽しみに来てくれるお客様、検査の為に朝食を抜いてきた患者さんから大変喜ばれた。

単品でのご注文や、ソースなし、汁を薄めて、酢を付けて、細かく切って…など対応できる範囲で個々に対応した。

ごはんと味噌汁をよそう作業は、ご飯の量の指示が細かく味噌汁も多めの注文や、おかわりもあるため対応力とスピードが求められ、スタッフには難しくパートナーが対応していたが、週４日出勤のスタッフにお任せできている。

準備、盛り付け、計数、片付けなど一日の作業をスタッフが行えるようになったためお任せしているが、最終確認はパートナーが行った。

メイン料理の盛り付けでは、個包装になっているものはスタッフ１人でも盛り付けが出来た。

大袋で計量しながらの作業は、種類が一つだと計量しながら盛り付けることが可能だが、複数種類が入っていると肉だけや野菜だけのように偏ってしまうため難しかった、出勤人数やメンバーに合わせて工程など考えFM調理場と連携し、スムーズに提供できるようにした。

スタッフの仕事として野菜の皮むきやカット作業をFMと連携しながら用意できるようにした。

また、味噌汁の具材作りなども行った。

衛生面に関しては、手洗い・消毒の習慣が出来てきており作業途中の声掛けでも出来るようになったが、洗い方はパートナーがからの声掛けがないと指先を水に触れさせるのみで終わらせてしまう。

同じ皿や箸を使ってしまうため、使い終わったものを置く場所を明確にして使い回しをしないように徹底した。

HACCPの記録をスタッフの仕事にすることで衛生面を意識し気を付けていけるようにした。

⑤ 価格変更

2023年4月より、お肉、お魚各セット550円/JhoJhoセット850円・カレー５００円・う～めん５００円ダブル５５０円等、食事メニューの50円値上げが決定した。

病院様と協議を行い、病院職員様と一般利用のお客様一律での値上げとなった。

ドリンク・デザート・モーニングメニューは据え置きで様子を見ることとなった。お客様より値上げについての混乱、苦情などはなかった。

６．年間行事

皆が集まって行う行事はコロナウィルスの状況もあり控えた。

・季節の行事・・・団子をたべよう！！(5月)
　　カレーを食べよう！！（8月）　芋煮を食べよう！！（11月）
　　お餅を食べよう！！（1月）

・支援計画面談・・・年間各スタッフ２回

・検便・・・・・・・4月、10月（年２回）

・避難訓練・・・・火災、地震、水害（垂直避難）

資料 8

2023年度（令和5年）相談支援センターほっぷの木事業報告

【状況】

令和5年度は平山さんの相談支援専門員の登録を行った。専従ではないため加算などの対象ではないが、今後少しずつ対応していく予定となっている。

毎月のモニタリングとリプランをしっかり対応する他、必要に応じて計画作成以外の面談や通院同行も対応しているので、毎月予定している面談回数よりも対応面談数は多い。計画に関わらない面談時には、各事業所に訪問して『サービス提供時モニタリング加算』を請求したり、その他複数回面談した時等の加算を都度請求している。

※給付費に関して別紙参照。

1．件数

更新月の関係で、毎月の更新・モニタリング数に波はあるが、安定した件数を継続して対応することができている。新規利用が4件あり、これまでの延べ人数（ファイル数）が95件になった。また、サービス終了が7件となっている。実際に計画作成・モニタリングを対応している件数がR5.3月時点で68件となっている。内訳は法人内件数18件（ほっぷ・ほっぷの実2件、びすた～りフードマーケット9件、cafeteria　olive・びすた～り榴ヶ岡7件）その他外部の事業所が50件となっている。

月にすると、少ない月で20件程度。多い月で35件程度対応しているが、細かい支援を入れると月に50件前後対応している。

2．相談内容

毎月のように新規の問い合わせは多くなっているので、年度末の時点で来年度に向け新規の相談支援に少しずつ対応することを検討している。お話を聞いた上で、すぐには対応できない時は、他の相談支援事業所につないでいけるよう対応している。

本人・ご家族の高齢化に伴いサービス事業所の変更やサービスの追加。また就労からA型・B型やグループホーム入居のようにサービスの種類の変更や追加を行うケースが増えてきている。また、介護保険サービスとの併用や介護保険サービスへの移行等、地域包括支援センターや居宅介護支援センターとの連携も密に行っている。

また、昨年まで新型コロナウイルス感染拡大防止のため、訪問や面談を無理に行わず、電話やメール・郵送など様々な方法で対応を行ったことで、自宅の生活状況が著しく悪化しているケースが多く、ヘルパーを追加したり、インフォーマルサービスを検討するケースも多かったように感じる。ご本人やご家族の希望を確認しながら対応している。

３．他機関との連携

担当件数のうち７割以上の方が法人外の方になっているので、細やかに連絡を取らせて頂き普段から情報共有を行っている。訪問時はその月の対象者だけではなく、自分が関わっている利用者の方々にもできるだけお会いできるよう調整して頂き、少しの時間でも様子を確認できるようにしている。

事業所と相談して、外来通院や入退院等考えられる方に関しては、通院先の相談員の方や主治医とも情報共有するようにしている。

介護保険サービス事業者との連携も大切になってきており、本人の高齢化だけでなく、ご家族の高齢化に伴い、多方面から生活環境を整える必要がある場合もあるので、地域包括支援センター等に相談させて頂くことが増えている。

その他行政や金銭管理サービス・後見人等、関わっていただいている機関とはしっかり連携が取れるよう顔合わせを行い、電話連絡やその他書面でやり取りしている。

サービスの支給決定のみで利用に繋がっていないケースなどは、委託の相談支援事業所に一般相談として受けてもらえるようにお話し、無理なく対応をお願いしている。

４.会議・研修について

今年度はコロナ禍が明け始め、会議等の開催が増えてきたように感じる。できるだけ参加できるものには参加している。また WEB での会議等も増えているが、訪問の合間に参加することが難しく参加できなかったものも多い。色々な関係機関の方々とお話する機会のありがたみはコロナ禍でとても実感しているので、今後も機会があれば相談支援の『質の向上』のため、仙台市障害者自立支援協議会や各区自立支援協議会のネットワーク会議や研修に可能な限り参加していく。各種会議等では特に計画作成の手法や各種サービスの活用法を学び相談者への対応に活かしている。その際参加者との交流を行い『横のつながり』をしっかり作り、今後の支援につないでいきたい。

相談支援センターほっぷの木
相談支援専門員　針生里美